

ハウレンソウを核とした周年出荷産地の強化

(対象：東部農業事務所担い手・園芸課)

【評価できる点】

- ・小玉スイカ産地からハウレンソウそしてコマツナ、大玉・黒小玉スイカへと課題解決に向けて普及員の強い意欲が感じられる。農家からの信頼も厚いことが察せられる。
- ・周年出荷を目指したハウレンソウ産地強化の方針は、かつてのスイカ産地からの転換という地域の歴史的背景を踏まえた現実的な戦略。特に、栽培環境が厳しさを増す中で「出荷量を現状維持（約4,900トン）」とする数値目標は、挑戦的でありながら現実的な水準を見極めており妥当だと思う。
- ・産地形成の経過および直近の生産環境を踏まえた課題設定となっている。支援対象も管内の基幹品目生産者として適切。特に、高温対策としての施策は、単に品目転換を進めるだけではなく、産地の強みを前提としている点が評価できる。
- ・課題設定から活動経過、残された課題と、流れがスムーズであり、よく練られた課題であると評価する。特に、スイカ産地「藪塚」ならではの技術の継承とその導入のタイミングや高温対策にハウスに遮熱剤塗布をするなど、その着眼点は大きいと評価できると思う。
- ・難防除病害虫対策として生産者にアンケートを取ったこと、情報を共有して地域全体で課題を解決したことは高く評価できる。
- ・高温期代替品目 代替品目別に導入すべき（適した）経営体を設定されている点（従業員規模、保有する技術、保有する施設等）、代替品目での高温対策の検証を実施し栽培の確実性を高めている点など、示唆に富む取組であると感じた。
- ・連作障害（べと病）への初期防除徹底と薬剤購入支援により、発病を営利上問題ない水準まで抑制できた点は高く評価できる。さらに、土壌病害虫に対しては処理環境の工夫によって防除効果を安定させる可能性が見えており、科学的な検証を取り入れた取組は有効だと思った。
- ・高温対策では小松菜等の葉物野菜や大玉スイカを組み合わせた経営補完が試みられ、実際に新規販売実績を上げるなど成果が出始めており、特にスイカについては市場性やブランド力を活かした今後の展開が期待できる。
- ・農薬の適用拡大についてももう少し具体的に知りたいと思った。今後、産地の柱としてのハウレンソウとスイカに両方適用のある農薬でローテーションできる薬剤が普及されることに期待したいと思う。

- ・これまでの取組を踏まえ、取組の延長に加え、新たな課題認識に対するアプローチへの言及もあり、引き続きの成果が期待できると感じた。
- ・小玉スイカ取組は素晴らしいと思う。長年続いてきたというブランドや、これまでの技術を見て、今後の成長性や規模の拡大を期待したい。世代間の繋がりを大事にしていけるかが、今大切なことだと思う。
- ・特に、気候変動を背景とした生産環境の変化への対応は不可避であり最重点課題である。既存品目を如何に作り続けるか、基幹品目の生産を一定維持するための経営安定目線での新規作物の導入、係る必要技術の検証と普及、といった連動性のある一貫した普及活動であるという印象を受けた。生産現場に一番近い普及指導員の皆様でこそ実施し得る取組として引き続きの実践をお願いしたい。
- ・地域資源を活かした周年出荷体制の強化を目指し、ハウレンソウの安定生産と代替作物導入の両面から産地維持に取り組んでおり、成果が着実に現れ始めていると思う。特に病害対策や高温下での栽培工夫は先進的であり、今後の展開に期待できる。

【改善・強化に向けた検討事項（意見・要望と対応策）】

1 課題や目標設定に関すること

◆意見・要望

特になし。

2 活動内容に関すること

◆意見・要望

- ・気候変動リスクの増大や新病害の発生、資材高騰、担い手確保と技術継承といった複合的な課題は依然として重く、産地存続には中長期的な視点での体制強化が不可欠だと感じる。行政・農協・研究機関等が連携し、技術支援と経営支援を組み合わせることで、地域の強みを活かした持続的な産地形成が進めてほしい。

【回答】

生産技術のみに偏らず、市場や情勢の変化に合わせて調整を加えつつ取り組むとともに、戦略的な事業活用推進により、産地基盤の安定を図ってまいります。

- ・価格の下落、品質の低下で悩む産地を復興するための様々な普及の努力が理解できた。農家手取りを増し農家のやりがいをもっと高めてほしいと思った。

【回答】

単純な効果や物量だけでなく、生産者の労賃や資材費などコスト評価も視野に入れて取り組んでまいります。